

専門家(建築士・大工)の取り組み

- 地域で活動する建築士・大工が安価な耐震改修の技術を学び、ボランティアではなく、仕事として地域の人々に働きかけることで、耐震改修を広げていくことが重要です。
- その際、市町単位で行政が関わって、地域全体で取り組むことが不可欠です。

ステップ1 建築士が安価な耐震改修の技術を学ぶ

耐震リフォーム達人塾

耐震改修促進にむけた建築士のスキルアップをサポートする耐震リフォーム達人塾に参加し、安価な耐震改修工法などについて学びます。



取り組み事例

- 田原市では、安価な耐震改修のポイントを学ぶとともに詳細な診断法の演習を実施
- 田原市では、さらなるスキルアップを図るために、詳細な診断法を用いて合理的に設計するソフトを使った設計演習を実施

ステップ2 地元の大工が安価な耐震改修という仕事を知る

大工の勉強会

安価な耐震改修を進めることができることのできる勉強会に参加します。



- 田原市では、大工が所有者に働きかけすることで耐震改修が大きく進んでいる高知県の取り組みについての講演と安価な耐震改修工法についての講演を実施

ステップ3 建築士・大工が所有者に働きかける

戸別訪問

耐震改修が必要と思われる住宅を建築士・大工が面的に戸別訪問し、減災まちづくりにむけた耐震改修の重要性を伝え、所有者に耐震改修を働きかけます。



- 田原市では、耐震診断の対象となる住宅を自治会ごとに抽出
- 田原市では、自治会役員と行政、専門家(大工・建築士)が組になって個別に訪問し、減災まちづくりの重要性や安価な耐震改修についての説明を実施

ステップ4 所有者の相談に建築士・大工が応える

耐震改修相談会

住宅の耐震に不安を持っている所有者の相談に建築士・大工が応えます。



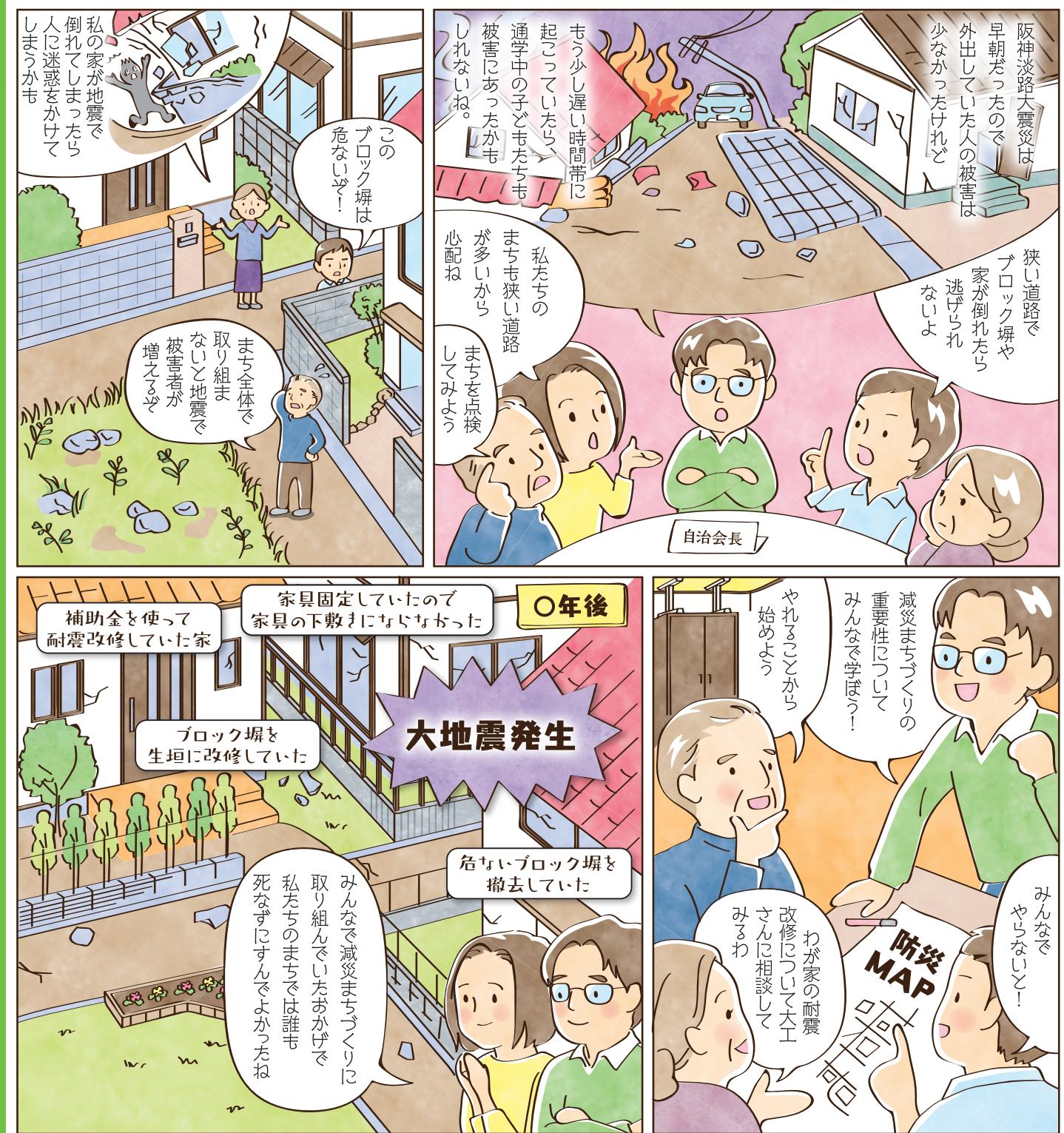
- 碧南市では、建築士、行政、大工が何回も勉強会を開催して安価な耐震改修技術を身に付けたうえで、市内の耐震診断実施者に直接手紙で参加者を募り、耐震改修相談会を開催。

私たちがみなさんの 耐震改修のお手伝いをします

地震で家が倒れて死ぬような人がいなくなるよう安価な住宅の耐震改修にとりくみます。耐震改修にあわせて、寝室の家具固定などもお手伝いしますよ。



減災まちづくりのすすめ



減災まちづくりについて、みんなが持続的に取り組むことがとても大切です。

NPO法人 達人塾ねっと

<http://tatsujinjuku.net/>



↑ 減災まちづくりとは

- 各地で防災訓練などの取り組みがすすめられていますが、地震による死者を出さないようにするためにには、それだけでは十分ではありません。以下のような事前の取り組みが重要です。

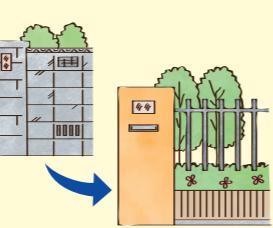
住宅の耐震改修



家具の転倒防止



ブロック塀対策



直後の助け出しの仕組みづくり



- これらを進めるためには、各自の意識向上が必要ですが、限界があります。みんなで学ぶことで、それぞれの意識を高め、地域のまちづくりとして取り組むことが重要です。



**ポイントは、地域のまちづくりとして
みんなで取り組むこと**

- まずやれるところから無理なく
- 繙続的に
- 専門家と一緒に

↑ 耐震改修のすすむ高知県黒潮町の取り組み

黒潮町では南海トラフ地震の被害想定で日本一高い津波高34.4mが示されたことを受けて、地震・津波防災対策への全町的な取り組みが行われています。ハード対策として、避難道や津波避難タワーの整備に取り組むとともに、ソフト対策として戸別津波避難カルテづくりや地区における地区防災計画が作成されました。

さらに、地震や台風などすべての災害に対して、地区全体で「犠牲者ゼロ」を達成するにはどうしたらよいのかという視点で様々な取り組みが進められています。

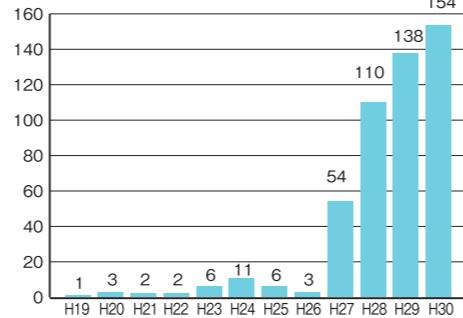
地震時に津波が押し寄せる出口地区では、地震時に家がつぶれては、自分が逃げられない、さらに、家がつぶれると、避難路を防ぎ、他人にも迷惑をかけてしまう、ということが地区全体で共有されるようになり、地区的区長が住宅の耐震改修の進捗を管理するなど、**地区ぐるみで耐震化**を進めています。

この地区では、自主防災会の総会で、地区に住む大工が、自分が実施した耐震改修の話をして、合わせて耐震診断の申込書を配る。ということから始まって、区長さんや大工さんも積極的に耐震改修の働きかけをした結果、**5年間で全体でも8割の耐震改修が進み、津波が想定される地区は、耐震改修が完了し、町が整備した避難路が地震時に守られるようになりました。**

黒潮町では、このほかの地区でも、防災意識の高まりを背景に、短期間に耐震改修件数が大きく伸びています。2018年度には、名古屋市(人口230万人)の85件を上回る154件の耐震改修工事が行われました。

これには、地震による犠牲者を出さないためには、耐震改修の実施が重要だということから必要な予算を全部つけるという町の姿勢や、耐震改修工事の費用について、安価な耐震改修技術が普及し、補助金(110万円)以内のものが7割を占め、ほとんどが130万円以下で工事ができていることも大きく影響しています。

耐震改修実績(黒潮町)



地域住民が防災を考えるワークショップが各地区で開催されている。



高台への避難路の両側の家で耐震改修が行われている。

↑ 地域の取り組み

- 地震による死者を出さないための減災まちづくりの重要性について学び、地域のまちづくりとして減災まちづくりに取り組むことが重要です。
- さらに、地元の建築士や大工が安価な耐震改修技術を身につけるなど、積極的に関わることも大切です。

ステップ1 みんなで減災まちづくりに取り組むことを表明する

減災まちづくりキックオフ大会

地域として減災まちづくりに取り組むことを宣言するキックオフ大会を開催し、そのことをニュースなどで地域住民に周知します。



田原市清田校区での取り組み事例

- 市民館で開催された防災学習プログラムの中でキックオフ大会を開催し、「減災まちづくり開始宣言」を発表
- 当日の様子と宣言を紹介する減災まちづくりニュースを全戸に配布

ステップ2 みんなでまちの現状を認識し、減災まちづくりの方針を考える

減災まちづくりワークショップ

まち歩きによって危険箇所などまちの現状を認識し、地震の際に死者を出さないための減災まちづくりの方針をみんなで考えます。



- 4地区の自治会長や役員などが参加し、2回のワークショップを開催
- まち歩きで危険箇所をチェックし、減災まちづくりの重要性を確認
- 地区ごとに減災まちづくりのすすめ方を検討し、耐震改修などの目標を設定

ステップ3 地域住民それぞれが減災まちづくりについて学ぶ

市民向け講演会・地区別住民勉強会

減災まちづくりについての重要性を学ぶ市民向け講演会や具体的な方法などについて学ぶ勉強会に参加し、それができることから取り組みます。

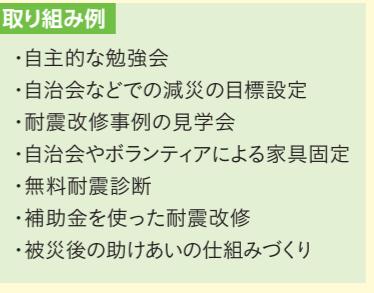


- 校区の防災訓練にあわせて学識者による木造住宅の耐震改修に関する講演会を開催
- 地区的公民館やお寺など身近な場所、時間帯で地元の建築士・大工が教え、住宅の耐震改修や家具固定などを学べる勉強会を開催

ステップ4 やれることから持続的に取り組む

地域での取り組み・各自の取り組み

自治会や自主防災会などで減災まちづくりの目標を設定したり、事例見学会や家具固定など、やれることからはじめ、持続的に取り組んでいくことが重要です。



折立自治会長(談話)

うちには年老いた母がいます。必ず来る地震に対して、やれることはやっておこうと思いつき改修することにしました。

